岩手日報

號外
（本紙不再錄）

明治廿五年三月十七日第三種郵便物認可
昭和八年三月三日發行
發行所　盛岡內丸　岩手日報社
發行兼編輯人　丁村恒藏
印刷人　荒川治助

深夢を破る地震
海岸は津波が襲ふ
宮古町海岸は倒壞家屋多く
釜石は波と火全滅？

三日午前二時半、人々の深い眠りを揺起して凄い強烈な地震が津手縣地方一帶に捲き起つた、盛岡に於ては強震と同時に電燈は消え機の物は落ち倒れ、建てつけの悪い家屋は戸障子が開かなくなる有樣で時計の針なども勿論止まつたが、震に物凄い音響で各戸では大騒ぎ悲鳴を擧げて街路に飛出し時ならぬ騒ぎを演じ、電燈の光が絶たれたので全市は暗黑化し自然の猛威的惨憺たる有樣だつた、強震は止んで後も揺り返しが海嘯來襲惡く間隔的に襲來して來るので強震の經驗に乏しい市民はおらくとして朝まで安眠を取ることが出來なかつた、地震後盛岡署各交番、憲兵隊、消防組並びに一部の火の番は提灯を提げて警戒に廻つた、この地震は明治二十九年五月廿日の三陸大海嘯、同年夏の和賀郡沢内村川舟の豪雨地震、明治三十三年八戸沖の大地震、同年夏の三陸地震、大正三年秋田縣強雨地震、一時六年三月九日八戸沖に次ぐ大地震で近年では六年三月の八戸沖地震を最大地震としてゐたがこのレードを遙かに破る強震だつた

盛岡測候所發表

▽發震　三日午前二時三十一分二十九秒
▽初期　微動繼續　三十二秒
△主要動繼續時間（人体感覺）約一分四十秒
△總震動時間　約一時間
△最大震幅　二十一ミリ
△震度　強震（弱い方）
△震源地　宮古町東南東の遙か沖合海底

緯度觀測所發表

（同上）水澤緯度觀測所測候課發表
一、發震時　三日午前二時三十一分四十秒
一、初期微初繼續時間　十六秒
一、方面　東へ六度北
一、震源地　釜石沖陸地に近き地點なり

釜石第一報
津波は襲ひ
二ケ所より發火
町民續々山へ避難す

（釜石電話）三日午前二時二十八分釜石地方は山鳴りを生じ大地震となり時經の子は同雜止まり釜石鑛山電燈は除電通行人は足をさらはれ隔東大地震を思はせる程大きかつた就中のことなので道のみ浜の壁で家を飛び出した人が多く流石大災の突發をおそれ消防組、警察署が出動警戒と協力非常警戒をなした海岸地帶の人々は地震と同時に山の手方面に避難した、同地老人の話によれば三陸海嘯を除き未だこれ程大きな地震は二度も感じたことがなかつたと

第一報

（二日午前三時五十分釜石電話局電話）三時十分ころより津波が押寄せて町民は全く明治二十九年の海嘯と同樣な結果となりはしないかと山へと避難してゐる津波は大渡川に六尺以上も増水するの有樣で第一回二回三回と押寄せ人心惶々たるものである一方松原方面に發火した町内目貫の製材所である澤村活版所附近より發火し延燒中で附近には郵便局があり延燒がおそれられてゐるが津波のため街路は水びたりとなり出火現場に駆け付ける事が出來ぬため詳細不明である

海岸通り殆ど全滅
倒壞、或は流失し只越、塲所前、中町、東前の倒壞家屋は數百戸に及び交通は杜絶した水は大渡町板澤旅館前まで押寄せてゐる

（遠野經由釜石電話三日午前五時二十分）釜石海岸通り家屋は殆んど倒壞、或は流失し只越、塲所前、中町、東前の倒壞家屋は數百戸に及び交通は杜絶した水は大渡町板澤旅館前まで押寄せてゐる

（釜石電話）釜石町四時半の報告によれば水上警察署は全くなくなり死傷者出で浸水は一先づひいたが海なりやまず津波がもう一度おしよせて來るではないかと見られ出火後火の手はやまず全く消火の見込がたゝない。四時五十分大槌地方の被害は未だ判明しないが浸水は二尺に及んでゐる

水上署その他倒潰
宮古全町阿鼻狂喚

（三日午前四時四十分宮古電話）宮古三日午前二時三十一分三十秒發震位置東南東山田沖合強震時間六分午前四時半までに判明せる津波の被害

△鍬ケ崎方面海岸通り水上警察署塩谷商會亀井商店鳴海商店鍬ケ崎漁業組合販賣所篠田木材店加藤平三郎町議宅倒壞

△宮古方面川口染谷材木工場伊東倒潰及び鉄地要り一帶浸水

△藤原方面宮古橋半分落橋し狀況不明

△多少の死傷者ある見込

宮古全町は全く阿鼻狂喚の巷と化し町民老ひも若きも右往左往してゐる

盛岡では最大限
福井測候所長談

今度の地震は激烈なる地震なので一度では收まらず局部餘震は三四十回も起るでせう然し人体に感ずる程の小震で止まるものと思はれます當所下の工場は六尺巾至八尺の波が寄せさらひ拂はれました

伊里前宮城（宮城）全滅す

（五時二十分千葉電報）宮城縣志津川町伊里前部落では人家（戸數不明）全部流出し部落民は小學校に避難中で氣仙郡田郡内には小さな海嘯があつたが被害はない模樣である

緯度觀測所創立以來
稀有の地震

（水澤電話）三日午前二時半の地震は非常に強烈で水澤地方では皆戸外に飛び出し大騒ぎを演じた目下の處死傷は被害は金ケ崎町古城村餘綾村など電線が切斷し一時暗黑と化した、水澤町の緯度觀測所の地震計の針がはづれてしまひかんじんの測定が不可能の狀態となつた同觀測所測候課では語る古い地震はよく判らぬが當觀測所が創立された明治三十五年以後一回もない位の大地震であつた人体に感じたのは五分間位で強震程度だつた

土藏崩壞
市内の被害

市内四家七八郎地裏井孝助方の土藏の壁が崩壞した損害は約五十圓篠崎明氏は安西三年八月十九日生れの高齢者である

下閉伊支廳報告

（四時半宮古町下閉伊支廳長報告）震と同時に停電し全町暗黑となり當安寺塩谷木工所が倒壞し宮古橋はなくなつてしまつた浸水があつたが極く少しで津波中の震動警報は二三沈後し破壞されたもの多數に上る見込み地震としては二十九年のそれよりは小さい模樣である被害程度は無しない

列車亂れず

盛岡運輸事務管内では運行中の列車はなかつたが運轉系統には何ら異狀なかつた盛岡では三時三十三分に時計が止まりそれと同時に停電したが電燈は間もなく復舊した